

海洋地球研究船「みらい」。2025年12月、28年間の任務を終える。

「みらい」は、世界最大級の海洋観測船である。優れた耐氷性能を備え、それまでのJAMSTECの研究船では不可能だった北極航海を実現した。また減揺装置の搭載によって横揺れが低減され、観測データが不足していた荒天の多い海域でも高精度なデータを取得できるようになった。航続距離は約1万2000マイル（約2万2000km）、無寄港で最大60日間の観測航海が可能である。観測対象は海洋、大気、生物、海底と、多岐にわたる。Aフレー

ムクレーンをはじめ多種類のクレーンやウインチが備えられており、トライトンブイ、20mピストンコアラ、大型CTD採水システムなどさまざまな観測機器の搭載・設置・回収が可能である。採取した試料やデータを洋上で速やかに処理・分析・保管できる最新の研究設備も整っている。

「みらい」はこうした特長を活かし、1997年10月の就航以来、極域から赤道域、北太平洋亜寒帯域、さらには南半球一周など、

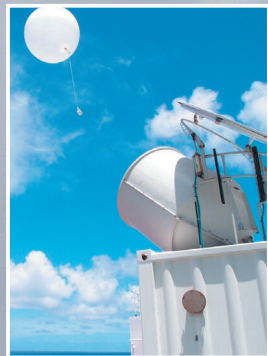
250回以上の航海を行ってきた。総航走距離は約230万km（地球約58周分、地球と月を約3往復分に相当）、乗船者数は延べ8,100名を超える。

海洋地球の観測研究に大きく貢献してきた「みらい」は、2025年12月に28年間の任務を終える。

主要目	
全長×幅×深さ	128.5×19.0×10.5m
喫水	6.9m
国際総トン数	8,706トン
巡航速力	11.5ノット
航続距離	約12,000マイル
定員	80名（乗組員34名／研究者46名）
主推進機関	ディーゼル機関 1,838kW×4基 推進電動機 700kW ×2基
主推進方式	可変ピッチプロペラ×2軸



係留気球



ラジオゾンデの放球



ドップラーレーダー



エアサンプラーによるエアロゾルの捕集



トライトンブイの設置



マルチプルコアラーの投入



プランクトンネットによる浮遊生物の採取



採水器からサンプル瓶への採水作業



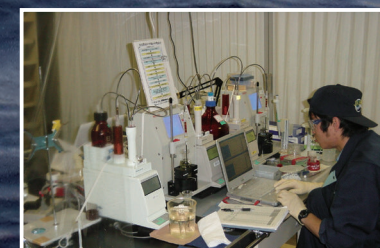
重力計による重力測定



CTD採水システムの投入



甲板水槽での基礎生産測定



採取した海水の酸素測定



ピストンコアラで採取された海底堆積物